



太龍寺周辺の遍路道が四国で初めて国史跡指定を受け、市民の歴史の道に対する関心がわかに高まる中で、今回の会議が開催されました。遍路道には、他の歴史の道にない魅力があります。悠久の時を超え、脈々と受け継がれてきた「お接待」の文化が息づいているのです。道の持つ歴史的・文化的価値だけでなく、そこに住む人々の生活活動もまた、遍路文化の形成に欠かせない要素の一つ。今回は、そうした遍路道を舞台とした地域や人々の絆に焦点をあて、歴史の道を核とした地域の連携について、さまざまな角度から議論を深めました。

「歴史の道の可能性」と題して行われた文化庁主任文化財調査官の佐藤正知さんによる基調講演では、国の史跡指定の歩みを振り返りながら、文化財の総合的把握と歴史文化基本構想が示され、歴史の道が持つ可能性を探りました。地域の取組などを紹介する活動報告では、阿南市を代表して「加茂谷へんろ道の会」会長の横井知昭さんが登壇。太龍寺周辺の遍路道が四国で初めて国史跡指定を受けたことで、地元住民の遍路道に対する意識が変わったことや、遍路道を生かした地域活性化への取



徳島県大会

歴史の道の保存や活用方法について話し合う「第12回全国歴史の道会議 徳島県大会」が10月19日、阿南市文化会館で開催されました。四国で初めてとなる今回の会議には、過去最多となる450人が参加。講演や活動報告で遍路道にまつわるドラマとロマンにひたりました。



古来、

道

は人々が交流

する

舞台である



加茂谷へんろ道の会
宮本光夫さん
(69歳・徳島市)

平成13年から記録している遍路道日記と写真をパネルにして、会場に展示していただきました。

「札所のできごとよりも、それらをつなぐ遍路道での人と人のつながりこそが、遍路文化のすばらしい魅力であると感じています。もっと歩き遍路が主流になり、そこに光が当たらないと、遍路文化そのものの衰退につながるのではないのでしょうか。四国が誇る歴史文化を次代に継承していくために、どう守り、どう活用し、どう伝えていくのかを考えるきっかけになってほしいです」



加茂谷へんろ道の会
竹内弘さん
(66歳・十八女町)

「四国遍路の歴史、遍路文化の価値を再認識しました。太龍寺周辺の遍路道は、古道の形態を色濃く残す歴史の道で、その一部は国史跡指定を受けています。四国最古の遍路道『かも道』も、国史跡申請の準備が進められています。本年5月、市の支援を受けて遍路道保護を目的とする『加茂谷へんろ道の会』を結成し、30人の有志が、歴史の道の保存・活用に知恵を絞っています。また、観光客を誘致しようと、ボランティアガイドの育成にも取り組んでおり、ウォーキングイベントの開催をめざしています。歴史と自然が調和した『かも道』で、その魅力を体感してみてください」

組などを紹介し、歴史の道を「地域の宝」として再認識して、守り受け継ごうと立ち上がった人々の熱い思いを伝えました。

今回の大会を通して、遍路文化の魅力と自分たちの活動を全国に発信できたことは、今後の歴史の道の保存・活用の仕組みづくりに取り組むうえで、大きな一歩になったといえます。遍路道でつながる香川・愛媛・高知県からの参加者からも「興味深い話を聞くことができて、非常に参考になった」と好評をいただきました。

2日目に予定していたウォーキングイベントは、悪天候のため中止となりました。研修を重ね、本番に備えていた地元のボランティアガイドの出番は残念ながらありませんでしたが、観光客誘致に欠かせないことはいまでもなく、今後も地元の方と連携を図りながら、遍路道の保存・活用事業を推進していきたいと思えます。

古来、道は人々が交流する舞台であり、その沿線に残る歴史的・文化的遺産を総称して「歴史の道」と呼んでいます。歴史の道会議でつむいだ全国のネットワークを生かし、さらなる国史跡指定と四国遍路の世界遺産登録に向けて、リーダー的役割を発揮していきたいと考えています。

